

### 前回大会を終えて

**市長** 本日はお忙しい中お時間をいただきありがとうございます。

まずは、宮城県で開催された前回の全国和牛能力共進会(以下「全共」)において農林水産大臣賞を受賞されたわけですが、受賞の発表があった際はどのようなお気持ちでしたか。

**薬師さん** 全共の場に参加することに喜びと不安を感じていたので、農林水産大臣賞受賞の結果を聞いたときは、驚きとうれしさ、また、それ以上に安堵の気持ちが大きかったです。個人というより、鹿児島島の代表として結果を残すことができ、肩の

荷が下りて様々な感情が入り混じっていました。

**市長** やはり、日本一の畜産県の代表として相当なプレッシャーがあったと思います。

素晴らしい結果を受けて、畜産関係者も大変盛り上がり、薬師さんの元にも数々の視察が訪れ、牛づくりへの期待が高まったと思いますが、その後の環境の変化はいかがでしたか。

**薬師さん** 畜産に関係のない人からも声を掛けてもらえるようになりました。また、より良い肉を作ることに向けて気持ちを高める契機となりましたし、肝属、鹿屋地区を「畜産基地」にするために、さらに盛り上げていかないといけないという気持ちになりました。

### 畜産を始めたきっかけ

**市長** 農林水産大臣賞を受賞したことで、様々な重責の中で、経営

# 新春



# 対談

に取り組まれていると思いますが、そもそも薬師さんが畜産経営を志したきっかけをお話しいただけますか。

**薬師さん** 父が畜産をしていたため、物心ついたときから畜産が身近にある中で育ってきました。小さいときから父の牛に対する取り組みを見て、毎日の仕事の大変さ、厳しさを感じていましたが、自然と父と同じことをしていきたいと思うようになったので、今の自分の取り組みは父の存在が一番大きかったと思います。

**市長** 小さいころから牛舎に入ってお手伝いをされていたのですか。

**薬師さん** 学校に行く前と学校から帰った後に牛への餌やりなどをしていましたし、土日も友達と遊ぶよりも父の手伝いを優先していました。自然と牛が好きになり、自分はこれをやらないといけないんだという気持ちになっていきました。

**市長** もともと動物は好きだったのですか。それとも、そのような環境の中で好きになっていかれたのですか。

**薬師さん** 牛に限らず、もともと動物は好きでした。自然相手、生き物相手というものに興味があつたのかなと思います。

### 肉用牛肥育の秘訣

**市長** 皆さんが聞きたいことだと思うのですが、素晴らしい肉用牛を育てるうえでの秘訣はありますか。ご自身の経営の特長として、心掛けていることがあれば教えてください。

### 全国和牛能力共進会とは

5年に1度開催され「和牛のオリンピック」と呼ばれる大会。和牛の能力と斉一性の向上を目指し、改良の成果やその優秀性を競います。

部	区分	種目	頭数	生後月齢
種牛	1区	若雄	2	15～23か月齢未満
	2区	若雌の1	2	14～17か月齢未満
	3区	若雌の2	2	17～20か月齢未満
	4区	繁殖雌牛群	3	3産以上、分娩間隔400日以内の3頭1組
	5区	高等登録群	3	直系3代(母牛、娘牛、孫娘牛)の3頭1組
	6区	総合評価群	4	17～24か月齢未満
肉牛		総合評価群	3	24か月齢未満
	7区	脂肪の質評価群	3	24か月齢未満
	8区	去勢肥育牛	1	24か月齢未満
農業高校等 特別区 農業高校等			1	14～20か月齢未満

※素牛…肥育開始前の牛





▲前回の全共では、鹿屋市から県内最多の7頭が出品され、いずれも上位に入賞

加できれば一番いいのかなと思います。  
**市長** 鹿屋から1頭でも多くの牛が全共に出品され、連覇へ向けて貢献ができればいいですね。薬師さんは全共に向けて4頭の牛を育てていらっしゃるようですが、順調でしょうか。

**市長** いつ来ても牛舎がきれいで換気が良く、牛も居心地が良さそうですが、環境という面ではいかがですか。

りました。(甘草には類似品があるのでご注意ください。)

やくし なりひと  
**薬師 成人** さん(45歳)

下堀町在住。母と妻とともに肥育牛と露地園芸の複合経営に取り組む。現在、肥育牛110頭を飼育し、露地園芸では甘藷、加工大根、ごぼうを生産している。

●主な受賞歴

- 平成29年 第11回全国和牛能力共進会 第9区 優等賞1席農林水産大臣賞
- 令和2・3年 鹿児島県枝肉共進会 グランドチャンピオン(2連覇)



**薬師さん** 1年を通じて暑さ、寒さ対策をはじめとして牛にストレスを与えない環境づくりを心掛けています。人が来ても牛が騒ぐことはありません。また、夏場であればハエを1匹でも減らすような努力をするなど、衛生面においても細かいことに気を付けて取り組んでいます。

若い世代へのメッセージ

**市長** 畜産に限らず農業後継者や就業人口が減少しておりますが、そのような中でも最近は若い農家の方や女性就農者を見掛けることも増え、大変心強く思っています。今後畜産を始めようと思っている方や、現在一生懸命取り組んでいらっしゃる方にメッセージをいただけますか。

**薬師さん** 私が畜産を始めて26年になります。その頃より20代、30代で畜産をされている方が増えた要因として、国や県、市からの支援やサポートがあり、若い人たちが取り組みやすい環境が整っていることが挙げられます。そのような中で、良い農場や良い畜産農家の元へ飛び込んでいき、情報を得るという姿勢を持ち、地域全体で畜産を盛り上げるという目標を持ってもらいたいと思っています。

**薬師さん** 4頭とも前回の宮城大会よりも順調にきています。しかし、10月まで気が抜けないため、1日1日大事に観察しながら、油断をせず仕上げていきたいと思っています。

**市長** ぜひ全国の舞台に出場できることをご期待申し上げます。最後になりますが、薬師さんのお子さんもちも畜産の学校を出られて一生懸命勉強をされているとお聞きしています。今後の畜産経営においてどのような夢を持たれていますか。

**薬師さん** 今の経営状況を大きく変えることは考えていません。子どもたちについても、もちろん強制・強要はできませんが、現在大学に在籍している長男が跡を継ぎたいと言ってくれるのであれば自分の持つ技術や畜産のやり方を教えながら、牛肉の加工・販売までやっていけると嬉しいです。

対談を終えて

**市長** 本市の畜産は、飼養頭数及び出荷頭数が全国でもトップクラスにあり、本市農業産出額の75%を占め、県内屈指の畜産地帯を形成しております。高齢化や担い手不足など、経営体数は減少していますが、経営者

**市長** 個々の経営もそうですが、畜産のまちとして、全体でレベルを上げていくためには情報共有や仲間づくりが大事だと思います。

複合経営について

**市長** これだけの規模で肥育経営と露地園芸の複合経営をされている方は珍しいと思うのですが、どのような思い・方針で取り組まれているのですか。

**薬師さん** 本音を言えば、畜産だけ取り組めたほうが体力的にも楽です。しかし、飼料・資材費の高騰や新型コロナウイルスの影響など様々な要因により、資金面が圧迫されることがあるので、1年間波のない経営をするために、父の代から変わらず畜産と露地園芸の両方を行っています。

**市長** 当然、価格の変化があるわけですし、資材を含めコストもかかりますので、経営していくうえでのリスク分散という意味もあるでしょうし、機械を使い回せるということもあるのではないのでしょうか。

**薬師さん** 機械もそうですし、堆肥を有機物として畑作に活用できるこ

の努力などもあり、規模拡大化が進展し、飼養頭数は増加傾向にあります。また、国産和牛肉の輸出も年々増加し、うち鹿児島県は全国の4割を占めるなど鹿児島県ブランドの認知度も向上しております。

本市におきましては、肉用牛生産・経営基盤の強化を図るため、様々な支援メニューを準備し、関係者と一体となって「日本一和牛のふるさと」のやがをキャッチフレーズに畜産振興を図っているところです。

全共の開催まで10か月を切りました。全共に出場するには、市共進会、郡予選、そして県の最終予選を勝ち抜いた24頭だけしか本県代表牛として出場できず、厳しく狭き門となります(全国で459頭が出場)。市内の生産者の日頃の努力の成果が報われることを期待し、また本市から出品される牛が「鹿児島県全共連覇」に大きく貢献できますようお願いいたします。

本日はありがとうございました。



本市在住の本村 実希さんが考案した、第12回全共鹿児島大会マスコットキャラクター「かごうしママ」

第12回 全国和牛能力共進会  
**和牛フェス in かごしま 2022**  
～和っ!と驚く美味さが「牛」っ!と詰まった和牛の魅力を鹿児島から～

日時 **10月6日(木)～10日(祝)**

場所 **種牛の部：霧島市牧園町**  
**肉牛の部：南九州市知覧町**



Voice 全国和牛能力共進会肉牛の部候補者



有限会社 うしの中山  
飯山 真志 専務

5年に1度の大イベントですので、出場できるように頑張りたいと思っています。現在は、特に健康管理に気を付けており、朝昼晩確認を行っているところです。10月までしっかり牛を育て上げて、能力を引き出して本選に出場したいと思っています。

**薬師さん** 地元開催ということではが非でもその舞台に立ちたいという思いも強いのですが、鹿屋地区にはベテランの方々がいらっしゃる中で、3人とも鹿児島県の代表として参

とも大きな理由です。

鹿児島開催の全共に向けて

**市長** さて、10月には鹿児島で全共が開催されます。全国の舞台に立つには市や郡、県などの予選を突破しなければならず、大変狭き門だと思いますが、市内では薬師さんの他にも2名の方が全共に向けて出品候補牛を育てていらっしゃいます。全共に向けての意気込みを聞かせてください。

